



越谷市立栄進中学校
第1学年 学年日より

第5号 5月2日(火) 発行

『むごい教育』

学年主任 山崎 直樹

4月28日(金)の保護者会には、お忙しい中、ご参会いただきましてありがとうございました。『すぐーる』でもお伝えさせていただきましたが、保護者の方の温かみを肌で感じることでできた保護者会でした。

さて、当日の保護者会の中で、学年経営方針とともに『むごい教育』のお話をさせていただきました。当日、ご参会できなかったご家庭もありましたので、改めてお伝えをさせていただきたいと思います。

戦国時代、駿河国を治めていた今川義元は、当時の習わしに従い、竹千代(徳川家康の幼名)を人質にとりました。そのとき、義元は家来に「竹千代に『むごい教育』をせよ。」と命じました。家来たちは「『むごい教育』だから、厳しく鍛えあげろということだろう。」と解釈して、早朝から竹千代を武芸に励ませるなど、一日が終わった夕方には厠(かわや:お手洗いのこと)で腰を下ろせなくなるほど厳しくしたのです。

数日して、義元は、竹千代の養育係を呼んで尋ねました。「『むごい教育』をしているか。」すると、養育係は「はい、『むごい教育』をしています。朝起きるときからすべて駆け足で行動させ、三食は粗食を与え、休憩も最小限にして、水練・剣術・槍術・馬術・学問に励ませ、修行僧のように鍛錬しています。一度ゆっくり見てください。」と得々と報告しました。

これを聞いていた義元は、語気を荒げて「それは『むごい教育』ではない。」と怒りました。義元の言葉を聞いて、並み居る家来たちは、怪訝そうな顔で義元の次の言葉を待ちました。義元は家来たちの様子を見て「お前たちには、余の意図がわからんのか。お前たちがやっていることは『むごい教育』ではない。今日から次のような『むごい教育』を実行せよ。一つ、朝は、好きなだけ長寝をさせよ。一つ、毎食、贅沢な食事をたらふく与えよ。一つ、武術や学問は、無理強いをするな。一つ、本人の望むものは何でも与えてやれ。そうすれば大概の人間は駄目になる。」と諭しました。

今川義元は、後に成人した竹千代(徳川家康)が、自分に敵対できないように、今のうちに、強い意思も根性も筋金も全く入っていない「骨抜き・腑抜け」にしておくことを願ったのです。

現代と戦国時代を同じように比較することはできません。そして、私たちは、武士として生きる子を育てていくのでもありません。私たちの願いは、子どもたちのより良い「ひとり立ち」にあります。そのためには何をしなければいけないでしょうか。現代版として、『おごい教育』を考えるのであれば、『お菓子やアイス、ハンバーガー等、子供が好きな物だけ食べさせ、車で送ってと言ったら送り、休みたいと言ったら欠席させ、たくさんのお小遣いとゲーム、スマホを与え、空調の効いた部屋で贅沢に遊ばせる。』などといったことでしょうか。これを、『おごくない教育』として考えてみると、『早寝早起きをさせ、歩いて登下校、食事は嫌いなものもバランスよく食べさせ、ゲームやスマホ、テレビは時間や約束を決めさせ、家庭学習、運動、読書、家の手伝いを徹底してさせる。』などでしょうか。つまり、

- ①贅沢をさせすぎない
- ②辛抱させる
- ③自分の思い通りにはならない経験を積ませる
- ④学習は好き嫌い関係なく取り組ませる
- ⑤我慢させる



などといったことが大切なのではないかと考えます。

現代の社会の状況は大きく変化しています。少子・高齢化の進行、AIの進歩など、将来の変化を予測することが困難な時代を前に、次世代を担う子供たちに、「生き抜く力」を身に付けさせるのは大人の責務です。「そのことが子どものためになるのか」、「子どもたちに好きなようにさせることと伸び伸び育てることの違い」は大人が判断しなければなりません。時には「物わがりの悪い大人」も必要です。

私たちの子育ての願いは、よりよい「ひとり立ち」にあります。そのためには、子どもの心の様子をしっかりと捉えながら、時には厳しく、時には丁寧に導いていくことが、私たち大人に求められていると思います。決まりやあいさつの大切さを教え、感謝する心や我慢する心を養い、そして「意思と筋金」をもった人に育て上げていくことが大切ではないでしょうか。その子にあった方法は何かを考えながら、ご家庭と学校が『共同生産者』となり、子どもたちを3年間育てていければと思います。私たち職員は、『生徒を愛して鍛えて、育てて、そして送り出す』ことを第1に考えています。保護者の皆様には、ぜひとも、『手を離して、目を離さず』にお子様と関わっていただきたく存じます。そうすれば、この3年間で、心もからだも大きく成長し、社会に生きる一人の人間として育ってくれると思います。

明日から、ゴールデンウィークに入ります。子どもたちにとってみると、入学してから初めての連休となります。学校から離れることで、改めて自分を見つめ直し、新たな自分を見つけることができる子もいれば、周りと比較しすぎて、自分に自信を持てなくなってしまう子もいると思います。お子様が悩みや不安を持たれ、心配することがあれば、遠慮なく学年職員までご連絡ください。保護者の方と一緒に考えていきたいと思っています。

